幸運なんです。雲南です。

だんだん雲南

雲南市東京ふるさと会会報
■発行日：2016年(平成28年)9月1日
■発行者：雲南市東京ふるさと会
会長　難波　明
■編集者：内田 正明
■印　刷：株式会社 東京デザインセンター

盛大に開催第5回交流会

雲南市東京ふるさと会

開催日時：2016年(平成28年)6月25日(土曜日)12～15時
開催場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)東京都千代田区九段北4-2-25

峠を越えたとは言えまだまだ暑い日が続いていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

本紙「だんだん雲南」も節目の第10号を刊行することとなりました。

今号では6月25日(土曜)にアルカディア市ヶ谷で開催された雲南市東京ふるさと会「第5回交流会」の模様を中心に、当会の活動状況等を報告します。

今回の交流会は昨年の「総会」とは異なり「決算報告や事業計画・予算案等の審議」は行わず、第1部「講演会」と第2部「懇親会」で構成、限られた時間の中でみなさんが親睦を深め合うとともにシンプルに楽しんでもらえる内容にしました。参加人数も昨年総会に対し約4割増しの総勢114名（会員と会員同伴者の合計91名、その内初参加は17名）となり、たいへん盛況で楽しい催しとなりました。

講演会は、宮内庁で式部官長を勤められた苅田吉夫さんに、昭和・平成両天皇や皇居・宮中などに関する思い出をお話いただきましたが、特に平成天皇の人柄に関する話は非常に興味深いものがありました。くしくも7月に入ると突然天皇の生前退位が話題に上りましたが、これも「相手を思いやる」「何事も一生懸命やる」という天皇の人柄ゆえの発案なのだな、と納得できるものがありました。

懇親会は当会会長の難波明の挨拶に始まり、来賓のご三方から祝辞を、その後雲南市の近況報告を頂き、そして雲南市市議会副議長の周藤さんの発声で待ちに待った乾杯へ。

今回は出身町別のテーブルへ飲み物・料理を給仕する中華方式での飲食としましたが、「吸い込み」の良いメンバーが多く供給が間に合わないテーブルもあったようです。そこそこおなかが落ち着いた所で松江市出身の小川たけるによる歌謡ショー、そしていよいよお楽しみ抽選会へ。上位賞品の当たり番号が読み上げられると、当った人の周りでは歓声とどよめきが起き、惜しくも外れた人からはため息が聞かれ、非常に熱気に満ちた時間となりました。

最後に当会副会長の奥田勲による閉会の挨拶をもってお開きとなりました。

交流会終了後は、会場を移し希望者による「二次会」を開催、交流会とは異なる顔合わせでの濃密な会話・懇親や、たくさんの喉自慢披露などで、こちらもまたおおいに盛り上がりました。

プログラム

■第1部　講演会
・講　師　苅田　吉夫さん
・演題　〝御傍（おそば）で拝見した天皇家ご一家〟
(注)講演の要旨、講師プロフィールは第2面を参照

■第2部　懇親会
・主催者挨拶
雲南市東京ふるさと会
会　長　難波　明
・来賓祝辞
雲南市
市　長　速水　雄一さん
東京島根県人会
副会長　三東　崇秀さん
島根県東京事務所
所　長　今岡　良さん
・来賓紹介(詳細は割愛)
・ふるさと近況報告
雲南市　政策企画部
部　長　佐藤　満さん
・乾杯発声 雲南市市議会
副議長　周藤　強さん
・歌謡ショー
「小川たける 新曲発表会」
・お楽しみ抽選会
・「雲南市歌」斉唱
・閉会の挨拶
雲南市東京ふるさと会
副会長　奥田　勲

来賓（順不同、敬称略）
雲南市市長　速水雄一▼同市議会副議長　周藤強▼同産業振興部部長　小川忍▼同政策企画部部長　佐藤満▼同政策企画部暮らし推進課課長　奥田清▼同政策企画部暮らし推進課主幹　江角祐哉▼同(内閣府出向)副主幹　高木洋輔▼同(文部科学省出向)主任主事　佐藤充▼同政策企画部暮らし推進課主任主事　安部真美▼東京島根県人会副会長　三東崇秀▼島根県東京事務所所長　今岡良▼東京仁多会会長　杠正吉▼福島県石川町町長　加納武夫▼(株)タウンクライヤー代表取締役　嶋啓祐▼雲南コミュニティ研究所理事長　小林義明

主催者挨拶

雲南市東京ふるさと会
会長 難波　明

ふるさと会は10年目

6カ町村が合併し雲南市ができてから昨年で10周年を迎え、当会も発足して本年が10年目の年に当たります。

本日これだけ多数の方にご参加いただき、盛大に10周年を迎えることができましたが、これもひとえに皆さんのご協力の賜物であり、まずは厚く御礼を申し上げます。

今回の交流会は、硬い話は抜きにし親睦を図ることを主眼においていますので、本日は是非ともおおいに楽しんでいただきますようお願いします。

また本日は来賓として雲南市長をはじめ、東京島根県人会副会長の三東さん、島根県東京事務所所長の今岡さん、東京仁多会会長の杠(ゆずりは)さん、福島県石川町町長の加納さん（大東町出身）、そのほか多くの方に貴重な時間を割いてご出席いただき、まことにありがとうございます。

ここで当会としての活動状況を少し紹介させていただきます。

東日本大震災から5年が経ちましたが、この間5回にわたり、震災復興を少しでも応援しようと「石川町応援ツアー」と銘打ったバスツアーを開催し福島県石川町を訪問しています。実際に復興のお役に立っているかは判りませんが、その気持ちだけは現地の方々に感じ取っていただいているものと考えます。　現地の復興も未だ道半ばであり、来年も訪問することにしていますので（詳細は別途ご案内予定）多くの方が参加いただければ幸いです。

当会はみなさんに「ふるさとの情報」を提供していこうと考えていますが、みなさんも「みなさんの情報」を雲南市に向けて積極的に発信いただきますようお願いします。

現行の役員（平成27～28年度）

会　長　難波　明
副会長(会長代行)奥田　勲
川本昭夫　大田宣也
野々村興太郎　渡部　弘
理事(事務局長)舟越　久
(事務局長代行)堀江　功
(事務局次長)陶山孝一
福間偉津子　赤名　忠
(会　計)内田正明
理　事　森山伸夫
青木繁之
石田信雄　黒田康之
小林巳久男　小林千寿子
白築薫男　田中成芳
深田恭司　藤原厚司
山本増雄
会計監査　上代哲也
山根勝美
顧　問　竹内一雄

来賓祝辞①

雲南市　市長
速水　雄一さん

雲南市は誕生からこの11月で満12年を迎えます。この間基礎固めを行ってきましたが、これから先の10年を飛躍の10年にすべく市民のみなさんや議会、執行部とともに努力をしているところです。

雲南市もご他聞にもれず人口減少（10年間で5000人）が進んでいますが、これと高齢化による地域力の低下にどうストップを掛けるか、どうやってプラスに転じさせ押し上げていくかが大きな課題です。人口減少の要因のひとつとして外へ出て行く若者が多いということが挙げられますが、ならば逆に若者に帰って来てもらう、入って来てもらうための施策をとることも重要と考えます。そのためIターン、Uターンを考える都会の若い人たちと呼応して、地元雲南市で積極的に頑張る若い人材の育成に取り組んでいます。

雲南市の応援団であるみなさん、ますますの応援をよろしくお願いします。

※事務局からのお知らせ

1、次回・来年の催し（名称は第6回総会）は平成29年(2017年)7月8日(土曜)に開催予定。
2、来年の催しでは、みなさんから「お楽しみ抽選会用の賞品」の積極的な提供を歓迎致します。

来賓祝辞②

東京島根県人会副会長　三東　嵩秀さん

先々週でしたか、NHKで「鶴瓶の家族に乾杯」を観ました。大東の棚田、三刀屋の旧家並みなどが出ていましたが、田舎の原風景を見るようで非常に楽しく見させていただきました。また雲南市が全国放送で紹介されること自体、非常にうれしいことであると考えます。

私は飯南町の出身でよく出雲空港からレンタカーで里帰りをしますが、どうしても雲南市を通らねば帰れません。また雲南市産の奥出雲ワインをギンギンに冷やし隠岐の岩がきと一緒にいただく、これが最高の楽しみであり、これらは私にとってどうしても雲南市を忘れる事のできないものにしています。個人的にも縁の深い雲南市のますますのご発展を、みなさんとご一緒にお祈りしたいと思います。

島根県東京事務所所長　今岡　良さん

出雲大社の大遷宮、松江城の国宝化決定、本年4月の「たたら製鉄」の日本遺産への登録と、明るい話題が続いています。また映画「たたら侍」が来年明けから全国一斉公開されますが、この中にも雲南市のいろいろな風景が登場するものと思われます。7月からはロケ地にテーマパーク「出雲たたら村」が開園予定で、「たたら」「雲南市」の知名度を高めて行こうと考えています。

3月に首都圏居住者を対象に「移住したい都道府県は?」というアンケート調査で島根県が3位に入りましたが、これは画期的なことであり島根の住みやすさなどが高く評価されてのことと考えています。是非これが実数に結び付くよう努力して行こうと考えています。

みなさんには引き続き島根県のPRなど、ご支援をよろしくお願いします。

おたのしみ抽選会

第五回交流会　雲南市東京ふるさ

特別賞品

刈田賞：森美術館入場券（ペア券）×1名（刈田吉夫様提供）
松下賞：女性用ニット洋品×4名（オフィス松下：松下陽子様提供）
島根館賞：雲南市物産セット×1名（にほんばし島根館様提供）
NDR賞：ギフト券×1名（NDRトラベル様提供）
おくに賞：食事券×1名（出雲神在料理おくに様提供）
雲南賞：ゴールドスターメロン×1名（大東町産・宅配）
市長賞：ワインセット×1名（奥出雲葡萄園製）
副議長賞：乳製品セット×1名（木次乳業製）

通常賞品

1等賞：和牛肉×1名（奥出雲牛：宅配）
2等賞：プレミアムアイスクリーム×2名（木次乳業：宅配）
3等賞：H28年産新米（5kg）×3名（吉田・宇山米：10月宅配）
4等賞：ちょんぼし笹巻村セット×4名（ふるさと村：宅配）
参加賞：玄米麺（2食話）×100名（宮内舎）

講演会

〝御傍(おそば)で拝見した天皇家ご一家〟　苅田　吉夫さん

私は旧大原郡幡屋村の出身で、幡屋小・中学校、大東高校までを郷里で過ごし、その後幸運にも東京大学に合格し東京へ出ることになりました。大学卒業に当たり外務省の採用試験にチャレンジしたら合格。それ以来東京を本拠地として過ごし、年に1回程中学・高校の同窓会で帰省していましたが、最近は雲南市との縁が深まり、市内の中学校を訪問し講演をしています。

私は外交官として約30年過ごした後、2度にわたり宮中でお仕えしました。決して易しい任務ではありませんでしたが、得がたい経験であったと考えています。

昭和天皇は独特の雰囲気とユーモアのセンスを持っておられ会話はいつも和やかでした。外務省時代に昭和天皇の通訳を務めたことがありますが、陛下の有名な口癖である「あ、そう」や「Ah so!」を何度も訳したものです。

私がフランスへ赴任する際、「重責ご苦労であった」という言葉を頂きましたが、これが昭和天皇の元気な姿に接する最後の機会となりました。

宮中の雰囲気も時代とともに変わってきています。昭和天皇は人を呼ぶのに敬称を付けられませんでしたが、平成の両陛下は「さん」付けで呼ばれています。また私がいた頃の女官さんは「両陛下は今日もおするする(平穏にお過ごし)でいらっしゃる」といった独特の宮中言葉を使っていました。また電話交換手は「承りました」と言っていましたが、最近では「はい、わかりました」と普通にうけたまわるようになっているようです。

宮内庁には式部職と侍従職、車馬課、陵墓課、庭園課といった独特な部署があります。式部官長は式部職のトップで宮内庁の儀式や外国との関連業務を担当、侍従職のトップが侍従長でこちらは内部の業務を担当するいわば天皇陛下の秘書官です。諸行事において陛下の先導を務めるのが式部官長、後方に従うのが侍従長ということになります。

大きな宮殿の中を先導して歩く際、後ろを振り向くことはできないので気が付くと陛下を後方に置き去りにしたり、コーナーで曲がる方向を間違え陛下から注意されることもありました。

皇居は広い敷地に原始林のような林や大きな池もあり、鳥やほ乳動物、四季の花々などを観ることができる非常に貴重な場所です。かつて池では鴨猟もできたそうですが、今では多少雰囲気が残っている程度です。また9ホールのゴルフコースもあって昭和天皇もプレイされたそうですが、現在は完全に原始林に戻っています。この広い敷地はきちんと整備されていますが、これは夏冬問わず全国からやって来る勤労奉仕団の奉仕作業によるものです。

天皇の外国訪問が宮内庁勤務で最も印象深いことです。わずか数日の滞在で陛下に対する、あるいは日本に対する感情・印象がずいぶん改善されることを実感したものです。これも陛下のまじめで真摯な対応が外国に感動を与えるためと思われます。

前述の勤労奉仕作業の最終日には皆さんが両陛下に拝謁する機会がありますが、陛下は毎回休むことなく出席され「ご苦労様でした」と挨拶されます。

また朝から晩まで非常に忙しく過ごしておられ、我々はご負担を減らそうとするのですが、「まだできる」と仕事を軽減することなく一生懸命やっておられます。皇室・王室のある国家は品格があり、政治に関わらない象徴としての皇室の存在が世界における日本の立場・評価を高めていると考えています。

その意味から皇室を持っている私たちは幸せであり、ここに関わることができた私もまた大変幸せであったと考えています。

苅田さんのプロフィール

昭和11年生まれ、大東町幡屋出身、大東高校から東京大学を経て外務省に外交官として入省し、オックスフォード大学、ハーバード大学に留学。

外務省で北米第一課長等を歴任の後、一時宮内庁に出向し平成即位の礼、平成天皇の中国訪問などを担当。

その後外務省に戻り駐シカゴ総領事、駐ニューヨーク総領事、駐デンマーク王国大使を歴任後、宮内庁式部官長として正式に宮内庁に移る。

現在は(株)森ビル、帝国ホテル等の特別顧問。

うんなん便り

政策企画部　うんなん暮らし推進課

めざせ、世界遺産「たたら文化遺産」が今年4月、日本遺産に認定されました

来年春公開の映画「たたら侍」のロケ地・雲南市掛合町多根にテーマパーク「出雲たたら村」が、7月15日から10月2日の期間限定でオープンしました。「たたら侍」の撮影で実際に使用されたオープンセットを公開する「たたら映画村」を始め、毎年東京お台場で開催されている「居酒屋えぐざいる」、島根の物産店やお土産屋などが並ぶ「ご縁坂」の3つのテーマパークを集結させた複合観光施設です。「たたら映画村」は、1万平方メートルを超える広大な敷地に戦国時代の原風景が再現されており、映画のセットのみならず、限定映像の上映や、主要キャストの劇中衣裳展示を行う「たたら侍エントランスシアター」も併設しています。さらに、今作のアクション監督がプロデュースした侍アクションショーも行われます。

日本全国から八百万の神々が集まる神聖な地であり、さまざまな出会いを結びつける、ご縁の地「出雲」で皆様のお越しをお待ちしています。

▼たたら村 午前10時から午後6時(居酒屋えぐざいる 午後7時閉店)。
▼映画「たたら侍」全国共通前売り鑑賞券付き入場料3500円、小中高校生2500円。

福島石川町訪問記

（山本 増雄 記）

このツアーは福島県石川町の加納町長が大東町のご出身と言うご縁で、原発による風評被害の払拭をお手伝いしようと、今回で五回目になる。桜祭りに合わせて四月十五～十六日が選ばれた。休憩を取りながらバスは石川町に入った、役場の佐藤さんと後任の高原さんの出迎えを受け、早速訪れたのが「日創プロニテイ」、失礼ながら大掛かりな板金屋さんだなと思った、本社が福岡県で震災後に石川町に工場を作られた経営意思に感心した。

次はお馴染みの「大野農園」。いつもと同じ長靴で真っ黒い顔でニコニコ笑いながら会長のご挨拶を頂く。息子さんは至ってイケメンで、聞けば東京でモデルをやっておられたらしい。それを辞めて、親父の後を継ぐ気になって、新しいアイデアで農業発展に努めておられるらしい。

当夜は町内の母畑温泉、八幡屋。加納町長もご参加で賑やかな懇親会を開いた。町長からはお土産やら差し入れの酒も頂き、恐縮この上ありません。

翌日は桜祭りの会場に行く、何時見ても河畔の桜並木が素晴らしい。桜を堪能した後は「農園カフェやい子ばあちゃん」で昼食。お土産屋に寄って、帰途についた。楽しい旅であった。

石川町の皆さん有り難う！一日も早い原発の安全確立と風評被害の払拭を願うものである。

福島県石川町
加納町長